

年 度 評 価 シ ー ト

課名 歴史文化課

施設の名称 静岡市歴史博物館	指定管理者名 公益財団法人静岡市文化振興財団
1 履行状況	
(1) 目標達成 ア 利用者満足度 目標値80%、実績値91.7%（前年度88.0%）、達成率114.6%（前年度比104.2%） イ 利用者数 （ア）入館者数 目標値187,000人、実績値189,243人、達成率101.2% （前年度：目標値500,000人、実績値284,115人） （イ）展示観覧者数 目標値56,000人、実績値49,620人、達成率88.6% （前年度：目標値141,000人、実績値83,294人） (2) 施設利用状況 ア 稼働率 講座室 75.6%（利用日数235日/開館日数311日） (3) 人員配置状況 館長（非正規）1人、正規職員16人（うち市派遣職員2人）、契約職員1人、臨時職員1人 (4) 業務実施状況 静岡市歴史博物館条例第3条に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。 主な事業と参加者数は以下のとおり。 【仕様書指定の事業に係る運営業務】 ア 「歴史探求」に係る運営業務 （ア）展示業務 a 基本展示 4月2日（火）～3月30日（日）311日間 観覧者数 49,620人（目標56,000人 達成率88.6%）	

b 企画展示 実施回数 4 回（目標：年 4 回以上）				
企画展示名	観覧者数	目標	達成率	1 日あたり平均
企画展示 「今川義元～偉大なる駿河の太守～」	7, 067 人	7, 500 人	94. 2%	181. 2 人
地域学習展示「走れ！しずてつ」	6, 684 人	7, 500 人	89. 1%	131. 1 人
大規模企画展示 「QuizKnockと巡る江戸東京博物館展」	14, 282 人	13, 500 人	105. 8%	210. 0 人
特集展示「しずおか別荘ものがたり」	3, 404 人	3, 500 人	97. 3%	89. 6 人

(イ) 資料調査及び研究

a 資料調査

年間67件の調査実施

b 家康公研究室の運営管理

(a) 家康公研究室の活用と研究成果の発表

利用者登録実績 年間60人 閲覧利用 年間215人

(b) 研究成果の発信

共同研究・報告会実施回数：4 団体 7 回 参加者211人

研究紀要：令和 7 年 2 月発行、論文掲載件数 6 件

(ウ) 資料の収集・保存・管理

収蔵資料を適切に管理するとともに、新規収集資料の清掃・燻蒸・環境調査を行った。

収蔵品管理システムの登録・公開状況

歴史資料163件、図書3, 379件、解説アプリ 36件

新規収集資料 35件

イ 「地域学習」に係る運営業務

(ア) 学習支援事業

a 市民団体との連携・協働による博物館事業

パネルによる活動紹介 8 件

団体事業の支援25件 参加者909人

団体研修の支援 5 件 参加者247人

b ボランティアの育成、活動支援

令和 6 年度ボランティア登録者：72人

活動日数：311日

1 日あたりのボランティア活動人数 5 人

c 高校・大学連携

学校団体活動支援 6 回 参加者120人

d 出前講座

年間25回実施 参加者1, 260人

(イ) 教育普及事業

事業名	実施実績	参加者数
企画展関連講演会	3 回	1, 058 人
館長講演会「館長の歴史がたり」	3 回	173 人

大規模企画展示「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」関連講演会	1 回	242 人
大規模企画展「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」関連イベント	3 回	627 人
「戦国時代末期の道と石垣の遺構」解説	585 回	6,015 人
展示室ギャラリートーク	48 回	644 人
古文書講座 初級者編	12 回	219 人
古文書講座 中級者編	3 回	82 人
古文書講座 子ども編	1 回	2 人
寺子屋駿府城	3 回	32 人
駿府城公園歴史カフェ	6 回	112 人
バックヤードツアー	3 回	39 人
こども博物館	21 回	745 人
歴史地域の映像放映	9 テーマ	—
企画展関連体験コーナー 「江戸のあそび、江戸のまなび」	2 回	370 人
学校見学の受入れ・解説	137 校	6,717 人
学校へ出張授業	9 校	327 人
学校教育に関するカリキュラム開発（2校）	10 回	1,413 人
学生・生徒からの相談対応	4 回	22 人
教員研修支援	3 回	39 人
職場体験の受入れ	15 回	45 人
博物館実習の受入れ	1 回	9 人

ウ 「観光交流」に係る運営業務

（ア）観光交流事業

a 歴史観光情報発信事業

歴史観光案内コンシェルジュによる案内日数173日 案内者3,171人

b 観光ガイド団体への支援事業

しずれきガイドツアーコースの令和7年度新設に伴い、68名に対し研修を実施

c しずれきガイドツアー

案内コース：5種類

228回実施 参加者714人

d 学芸員による歴史ガイドツアー

（企画展に関連した現地のガイドツアー）

8回実施 参加者206人

(イ) にぎわい創出事業

事業名	実施回数	参加者数
わかりやすい歴史、地域のおはなし※	44回	3,193人
学芸員マニアックトーク※	12回	1,032人
体験ワークショップ※	47回	1,830人
博物館にぎわい広場	17回	1,953人
ナイトミュージアム	22回	—

※教育普及事業としても実施

エ 施設維持管理業務

施設管理業務について、施設内設備の管理等他3件を自主点検により実施し、清掃業務等他25件の管理業務を第三者委託等により実施した。また、修繕を14件実施した。

(5) 指定管理者の努力・創意工夫が見られた点

ア 多様なテーマの展示による集客強化

徳川関連にとどまらず、駿河を治めた今川氏や清水地域に縁のある井上馨、静岡鉄道など幅広いテーマを取り上げることで、多様な歴史ファンの関心を喚起し、来館者の増加を図った。

イ 体験型展示の導入による理解促進

地域学習展示「走れ！しずてつ」及び大規模企画展示「QuizKnockと巡る江戸東京博物館展」において、来場者が資料に直接触れることができる体験型展示を取り入れ、視覚的・触覚的に歴史を学べる機会を提供し、より深い理解と興味を促した。

ウ 大規模企画展示の実施による認知度向上

「QuizKnockと巡る江戸東京博物館展」では、メディアとの共催による広報展開とクイズ形式の解説を活用し、幅広い層の関心を引き付ける工夫を施した。

エ 学校連携による教育普及の推進

学校等教育機関と協力し、学習指導要領と展示との関連性を示した学習教材の提供や出張授業を実施し、地域の教育と博物館の価値向上に貢献した。さらに、カリキュラム作成支援や部活動との協働を通じて、博物館の教育的活用を促進した。

【検証・分析等】

事業全体を通じて、施設の設置目的及び基本理念を理解、達成するために明確な事業方針を定め、新たな試みにも積極的に取り組んでいる。

ア 観覧者数増に向けての取組

多様なテーマの企画展を4回開催した。このうち2回の企画展示で体験型展示を導入し、幅広い来館者増に寄与した。また、大規模企画展示「QuizKnockと巡る江戸東京博物館展」をとおり、普段歴史に興味が無い方にも足を運んでいただいた。また、地元メディアとの共同開催により、認知度向上に貢献したことが

評価できる。また、開館以来の学芸員トークや工作イベントを継続しながら、質の高いコンテンツを提供することでリピーターを獲得しており、入館者目標達成に寄与した点が評価できる。

イ 学校連携の取組

学校連携の取組として、また、市内の学校に対し、学校の教育課程において、歴史を効果的に教えるためのカリキュラムを開発している。これは従来の市内施設では実施していなかった新しい試みであり、子どもたちの地元の歴史に対する愛着形成に寄与している点が評価できる。

ウ 博物館資料を活用した取組

博物館所蔵の古文書を活用した古文書の読み方講座を実施している。実際の古文書を活用した講座を実施することで、資料を身近に感じる機会を提供しており、評価できる。

エ 歴史ガイドツアーの新規コース開拓

「しずれきガイドツアー」において、従来実施していた5コースに加え、新たなコースを開発し、歴史スポットを新たに紹介する試みを行っている点が評価できる。

オ 資料の保存・管理

収集資料の整理について、収蔵品管理システムにおける歴史資料登録が163件であるが、博物館法が改正され、資料のデジタルアーカイブ化が推奨されていることから、今後のデジタル化に向けての取組に期待する。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

- (1) 意見等：家康公・今川氏以外の本市の歴史の展示を充実させてほしい。
対 応：企画展やトピック展示、講座等で本市の通史を取り上げた。
- (2) 意見等：実資料の展示を充実させてほしい。
対 応：田安德川家資料を収蔵後速やかに展示。
- (3) 意見等：順路表示が分かりづらい（複数月にわたり指摘）
対 応：スタッフによる案内、矢印や案内表示の強化に加え、新たに館内ガイドを作成。
- (4) 意見等：休憩用の椅子が少ない
対 応：高齢者や長時間滞在者向けの休憩用椅子の増設。
- (5) 意見等：古文書の現代語訳や読みを追加してほしい
対 応：古文書の意味が伝わるよう要約や大意の表示を追加した。
- (6) 意見等：展示ルートが分かりづらい
対 応：新たに館内ガイドを作成し、モデルルートを記載。

【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、良好な対応が

なされているといえる。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

ア 年間「利用者の声」アンケート

博物館無料来館者及び有料展示観覧者に対しアンケートを実施し、満足度調査を行った。

【調査結果】

回答者総数：1,616人

満足度（各設問で「良かった」「まあ良かった」と回答した人の割合の平均）

91.7%（前年度88.0%）

内訳	回答総数	満足回答	満足度	前回満足度
職員の対応	1,616件	1,519件	94.0%	90.5%
館内の過ごしやすさ	1,616件	1,487件	92.0%	88.3%
案内の見やすさ	1,616件	1,460件	90.3%	85.8%
解説のわかりやすさ	1,616件	1,465件	90.7%	87.1%

イ 事業参加者アンケート

博物館事業の参加者に対しアンケートを実施し、満足度調査を行った。

【調査結果】

回答者総数：4,306件

満足度（「とてもよかった」「よかった」と回答した件数の割合の平均）97.7%

内訳	回答総数	満足回答	満足度
体験工作	420件	417件	99.3%
わかりやすい歴史・地域のおはなし	2,016件	1,938件	96.1%
学芸員マニアックトーク	640件	630件	98.4%
企画展開連講演会	910件	884件	97.1%
こども博物館	320件	312件	97.5%

【検証・分析等】

年間「利用者の声」アンケートの満足度は91.7%（前年度88.0%）であり、目標値で満足度80%を大きく超えたことは高く評価できる。すべての項目が高い水準であり、良好な評価を得ている。また、事業参加者アンケートの満足度平均も97.7%と、良好な評価を得ている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

【確認結果】

—：未実施

(3) その他の調査

【確認結果】 一：未実施	
4 指定管理者の経理状況の評価	
【収支状況】 指定管理業務の収支状況については、適正に執行されている。 【検証・分析等】 指定管理業務の収支状況について、支出超過が見られるが、これは指定管理期間に1回実施する必要がある大規模企画展示を実施したこと・物価高騰に伴う光熱費の増大によるものである。また、開催した大規模企画展示において、新聞社との共催により、大規模企画展示の大々的な広報を実施するなど、限られた予算の中で効果的な事業実施に努めており、今後も堅実な運営に期待したい。 【確認結果】 ○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。	
5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）	
前年度事務事故発生の有無	有
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無
《事務事業事故》 (1) 指定管理者が歴史博物館ボランティア72名に対し、活動日程に関するメールを送信する際、「Bcc」で送信すべきところを「To」で送信した。ボランティア各自のメールアドレスはボランティア間では情報共有していないため、相互にメールアドレスが漏洩することとなった。 ○応急対策 ・メールの誤送信を決して起こさないために、複数の担当者がメール内容を確認した上でメールを送付するようにする。 ○恒久対策 ・静岡市文化振興財団による全財団職員向けの個人情報保護、情報セキュリティ研修を実施（毎年度継続実施）する。また、博物館の具体的な業務や事例を取り上げた個人情報保護を含む危機管理研修を実施（毎年度継続実施）する。 ※上記研修は毎年度実施しているが、今後は当該事故や類似事例を取上げ、その対応策を周知するなど、内容を強化し実施する。 【検証・分析等】 指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い適切に実施されている。施設維持管理について、来館者が安心して利用できるよう、法定点検・日常点検・定期点検を徹底し、必要に応じて修繕等の対応をし、施設の安全な維持管理に努めている。 アンケート調査・要望に対する対応について、高い水準を維持しつつ、要望があれば迅速に対応しており、良好な施設運営がされていることがうかがえる。 事業実施について、仕様書における事業を計画回数以上実施し、事業に創意工夫をするなど、積極的な姿勢が来館者目標の達成に寄与したと評価できる。ただし、有料展示観覧者増に向けての取組に課題が残る。令和7年度から企画展示のみの利用しやす	

い料金設定が開始予定のため、これを機に展示観覧者増に向けての取組に期待する。

事務事業事故 1 件、事務事業ミス 2 件発生している点も課題である。個人情報を取扱う業務に関し、職員によるダブルチェックを徹底するよう留意されたい。

今後も様々な団体との連携を促進するとともに広報を強化し、継続的な入館者数の確保につなげてほしい。

【検証・分析等】

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。